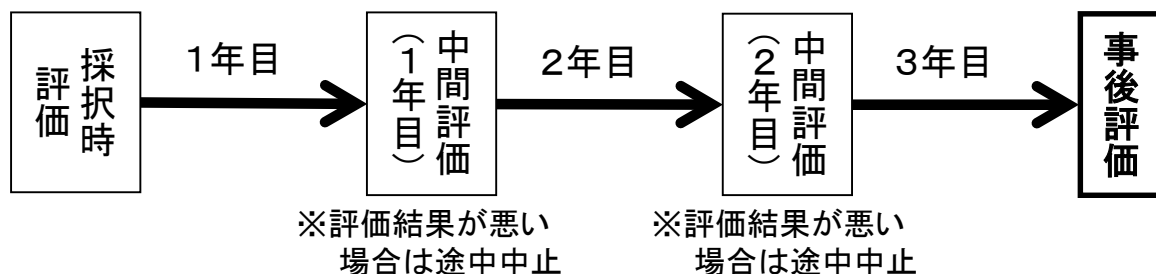


# 平成29終了課題の事後評価について(概要)

## 1. 位置付け

### 採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



## 2. 目的

- ・ 研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価
- ・ 今後の制度全体の評価や見直し等に活用すること

## 3. 手順(スケジュール)

① 研究終了報告書の提出 (6月頃～7月頃)

① 書類の事前査読 (8月頃)

- ・ 評価分科会各委員による書類の事前査読。  
(委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡)

② 研究評価会・研究成果発表会の開催 (9月頃)

### 【研究評価会】

- ・ 各分科会ごとに研究評価会を開催。
- ・ 分科会各委員は研究課題ごとの事後評価シートを作成。
- ・ 各委員作成の事後評価シートを基に、研究課題ごとの事後評価(案)作成のための審議。

### 【研究成果発表会】

- ・ 研究成果の普及促進。

③ 事後評価(案)の作成 (9～10月頃)

- ・ 研究評価会后、分科会長が事後評価(案)を作成。

④ 事後評価の決定 (10月頃)

- ・ 新道路技術会議において事後評価(案)を審議し、合議により事後評価を決定。

⑤ 事後評価結果の通知及び公表 (10月頃)

- ・ 研究代表者に書面にて事後評価結果を通知
- ・ 道路局HP等において、成果報告レポート及び公表用資料と併せて事後評価結果を公表

#### 4. 評価の視点

研究の視点	研究目的の達成度	研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。
	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。
	研究成果の活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。
行政の視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。

#### 5. 評価基準

評点	説明
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったとは言い難い。

#### 6. 対象研究テーマ及び担当委員

分科会	領域	タイプ	採択年度	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会				該当なし		朝倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青木委員</li> <li>・江守委員</li> <li>・河口委員</li> <li>・久保田委員</li> <li>・佐々木委員</li> <li>・林委員</li> <li>・兵藤委員</li> <li>・道路局担当官</li> <li>・国総研担当研究官</li> </ul>
ハード分科会	8	II	(FS採択) H26年度 (本採択) H27年度	高性能鋳鉄床版の開発	九州工業大学 教授 山口 栄輝	那須委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今村委員</li> <li>・古関委員</li> <li>・下村委員</li> <li>・高橋委員</li> <li>・久田委員</li> <li>・山口委員</li> <li>・道路局担当官</li> <li>・国総研担当研究官</li> </ul>
	4	II	(本採択) H27年度	沢埋め道路盛土の経済的な耐震診断と耐震補強の開発	神戸大学 教授 澁谷 啓		